

イザヤ書 第2章 3節

「『さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。』それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。」

直前に、終わりの日、という言葉が語られている。普通の話では、終わりが語られるなら、文字通りなにもかも終わってしまう。取り返しがつかない、手のほどこしようもない出来事を象徴する言葉が、終わりである。

ところが、さあ、と呼びかけが始まる。これから何かが始まろうとしている、さあ、である。終わりの日に向かうとき、神殿に上ろうと呼びかける。そこで、主はご自分の道を、神殿に上る者たちに教えてくださる。終わりの日に向かう者たちに、道を教えてくださるのである。終わりの日は、世にいう終わりではない。主の道が人々の道となる日が来る終わりである。主のご計画が完成する日、その終わりである。上った者たちは教えられた小道を歩み始めるときが、終わりの日である。

さあ、の呼びかけに大きな期待と望みがある。それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。終わりの日でも、いや、終わりの日に聞く主のみことばがある。さあ、みことばの座に上ろう。